

はじめに

宮城県南三陸地域は、古くからイヌワシの生息地として知られています。また、南三陸町ではイヌワシが町の鳥とされており、上空を悠然と飛翔する姿は、地域の住民から親しまれてきました(写真1)。南三陸地域の中でも、石巻市、登米市にまたがる翁倉山はイヌワシの繁殖地として国の史跡名勝天然記念物、宮城県の自然環境保全地域特別保護地区に指定されており、全国的にも有名な生息地となっています。ところが、イヌワシは国内希少野生動物種に指定されるなど、国内での絶滅が危惧される種となっており、南三陸地域においても、近年ではその雄姿を見ることが難しくなっています。イヌ

南三陸地域におけるイヌワシの生息環境の再生について

東北森林管理局 宮城北部森林管理署

管内概要

宮城北部森林管理署は、宮城北部森林計画区の国有林野約7万1千ヘクタールを管理経営しています。

管内は西部に南北を走る奥羽山脈の山岳地帯、東部に北上高地の丘陵地帯及びこの2つに挟まれた平野部に大別されます。

奥羽山脈には、栗駒山(1,627m)、船形山(1,500m)等の標高1,000m以上の山々が連なり、原生的な天然林等の「栗駒山・柗ヶ森山周辺森林生態系保護地域」を始め、自然環境の優れた「栗駒国定公園」や「県立自然公園船形連峰」などがあります。

また、丘陵地帯は北上高地の南端部に位置し、標高600m以下の起伏の緩やかな地形となっており、東側は太平洋に面するリアス式海岸で「三陸復興国立公園」、「県立自然公園気仙沼」に指定されています。

平成20年の岩手・宮城内陸地震では大規模な山地災害が発生し、また平成23年の東日本大震災では海岸林等に甚大な被害を受けました。これらの被災箇所の復旧・復興に向けた事業を推進し、地域の安全・安心を確保するための取組を進めています。

管内の森林の91%が保安林に指定され、水源涵養や土砂流出防備等の重要な役割を担っています。また、林業・木材産業においては、大規模合板製造工場や大手製紙会社等があり、地域における重要な産業になっていることから、国有林としても木材の安定供給に取り組んでいます。



署の基礎データ

所在地	宮城県大崎市古川東町5-32		
区域面積	449,907ha	うち森林面積	251,373ha
国有林面積 (官行造林地を含む)	70,942ha		
管轄区 の 関係市町村	気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町、東松島市、登米市、 栗原市、大崎市、加美町、色麻町、美里町、涌谷町、大和町、 富谷市、大郷町、大衡村		



写真1 南三陸町の町鳥、イヌワシ

ワシの個体数減少の要因の一つとして、イヌワシにとつての「狩り場」が少なくなったことが指摘されています。

近年、戦後に造成された多くの人工林では、樹木が成長することで隣接する木々の枝葉が重なり、上空から地表が見えなくなっています。イヌワシは、草地や伐採跡地（写真2）、放牧地などの開けた場所で狩りを行う大型猛禽類のため、このような上空から地表が見えない人工林はイヌワシの「狩り場」には適していません。一方、国有林では、伐採時期を迎えた人工林を計画的に伐採し、木材を安定供給しつ



写真2 イヌワシの「狩り場」となる伐採跡地（イメージ）

イヌワシの 生息環境再生の取組



つ、再造林を進めることで、地域の林業の成長産業化を推進することとしており、これらの取組によって伐採跡地や造林地が継続的に配置されることから取組はイヌワシの生息環境の再生、とりわけ「狩り場」の創出につながるものと期待しています。

このような背景の下、南三陸地域では、国有林を含めた地域の森林の所有者、南三陸町をはじめとする地方公共



写真3 南三陸町内の国有林における現地検討会の様子

団体、自然保護団体等が連携し、平成27年に「南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト」を発足させました。このプロジェクトでは民有林と国有林が連携して、地域で親しまれ豊かな自然環境の象徴でもあるイヌワシの生息環境の再生と、計画的に伐採された木材の活用による地域の林業の成長産業化を目指すこととしています。

昨年度は、宮城北部森林管理署管内で本プロジェクトの関係者や有識者による現地検討会を開催し、イヌワシの生息環境の再生にも資する具体的な伐採方法の検討を行うとともに、その

今後の取組



結果に基づき、南三陸町、森林所有者、東北森林管理局が連携して、イヌワシの行動圏内に一定の面積の伐採地が継続的に作られるよう、今後の5年間の森林計画を国有林と民有林についてそれぞれ策定しました（写真3）。

今後は、宮城北部森林管理署管内のかつてイヌワシが生息していた場所を中心としたエリアにおいて、国有林と民有林が一体となってより低コストで効率的な森林施策が実施できるよう、森林所有者、南三陸町、登米市、石巻市と東北森林管理局が間伐等の森林施策を連携して行うことなどを目的とした「森林共同施策団地」を設定することとし、現在、協定の締結に向け調整を進めているところです。

本プロジェクトを通じ、多様で健全な森林づくりがイヌワシの生息環境の再生と地域の林業振興に寄与するとともに、イヌワシが、南三陸地域の復興のシンボルとなることを願いながら、今後も地域の方々と共に取組を進めてまいります。